

福祉ぐんま



特集

P2・3

サロン活動をとおした 居場所づくり

つながる福祉
いきいきサロン萩原の
皆さん
【関連記事は6ページ】

CONTENTS

P4

TOPICS

- 「平成30年7月豪雨災害」被災地支援活動
- こども食堂ネットワークぐんま
- 市町村社協会長セミナーを開催しました

P6

つながる福祉 インタビュー / 県社協会員紹介

P7

◆ まちの社協レポート ～吉岡町社協～

◆ 各種貸付制度の紹介

P8

◆ 年頭のごあいさつ

◆ INFORMATION

- なんでも福祉相談

ホームページは
下記のQRコード
からアクセスして
ください。





特集

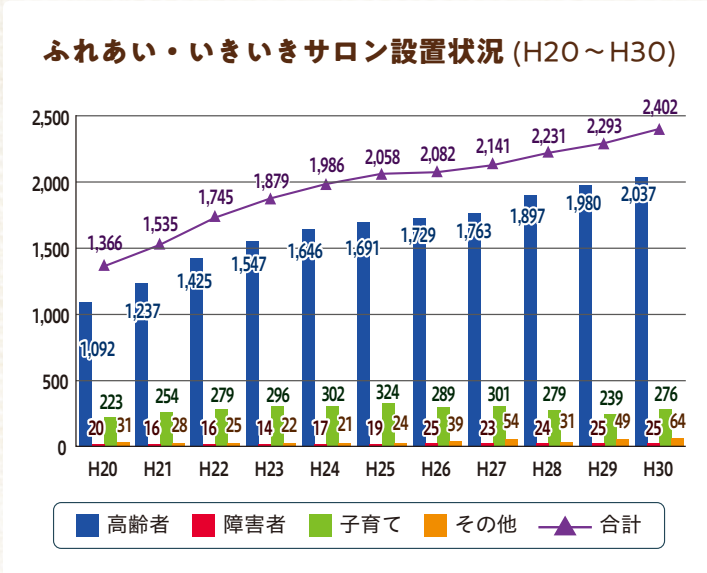
サロン活動をととした居場所づくり

現在、国では、制度の縦割りや「支え手」「受け手」という関係から、全ての人が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしを支えるとともに生きがいをもって活動できる地域をもつにつれていく、「地域共生社会」の実現を目指しています。

ふれあい・いきいきサロンは、参加する一人ひとりがともに楽しい時間を過ごしながら「支え手」「受け手」の関係を越え、「地域の一員」として住みなれた地域でいきいきと生活できるよう新たなつながりづくりの再構築や、ひいては地域の住民同士の助け合い活動が広がっていく「きっかけづくりの場」にもなり、とても重要な活動であります。まさに、「地域共生社会」の実現に向けて、ふれあい・いきいきサロンに期待が高まっています。

ふれあい・いきいきサロンへの期待

社会福祉協議会では、地域を拠点に、その地域に住む住民同士が協働で企画し、内容を決め、ともに運営していく楽しい仲間づくり、居場所づくりの活動である「ふれあい・いきいきサロン」を推進しています。



平成30年6月1日現在で、群馬県内では2,402か所のサロン活動が確認されています。また、開催頻度については、週1回以上が267か所、月2回程度が286か所、月1回程度が1,030か所、月1回未満が367か所、その他が188か所、未回答264か所となり、地域での活動が広がっています。

ふれあい・いきいきサロンの調査から

サロン設置数の推移

サロン研修会の様子

平成24年度より県内5ブロックに分かれて研修会を開催し、平成29年度からは子育て世代を対象とした子育てサロン研修会を独立させ開催しております。平成30年度は合計で1,801名の方に研修に参加いただき、実践事例発表やレクリエーション研修を通してサロン活動者への支援や、サロン活動の普及・啓発を図りました。



西部ブロック研修会の様子



東部ブロック研修会レクリエーション研修の様子

サロンは
「地域のつながりをつくる場」

地域の中にはさまざまな人が暮らしています。そして、そこにはさまざまな生活課題があり、誰にも相談できずに困っている人や人知れず悩んでいる人もいるかもしれません。

誰もが住み慣れた家庭や地域の中で、その人らしく安心して生活し続けるためにも、お茶を飲みながら仲間と気軽に話しのできる場所がある、相談できる仲間がいることは、とても大切なことです。



いきいきサロン萩原の様子



サロンは、一人ひとりがともに楽しい時間を過ごしながら、個人、地域、社会をつなぐ橋渡しの拠点として、地域のつながりを再構築し、お互いに支え合い、助け合う関係をつくりだすことができます。

1

「平成30年7月豪雨災害」 被災地支援活動

6月末から7月にかけて、

西日本を中心に降り続いた大雨は、河川の氾濫による浸水被害や土砂災害など、各地に甚大な被害をもたらし、近年に例を見ない広域的な豪雨災害となりました。

社会福祉協議会では、「誰もが安心して暮らすことのできるまちづくり」を推進している立場から、日頃から生活課題を抱えた方々に寄り添いながら解決に向けてのお手伝いをしてきました。これは災害の発生によって生活課題を抱えてしまった方についても同様に関わっていく必要があり、こうした意識をいっそう高めていくことから、県社協としても県内の市町村社協と連携しながら、災害ボランティアセンターの運営を支えるための支援を行いました。

1 災害時の相互支援に関する協定に基づく派遣

岡山県社協、岡山市社協、広島県社協、広島市社協および中国ブロック幹事県である鳥取県社協から応援要請があり、全国社会福祉協議会では、職員派遣の規模を拡大し支援することを決定。本会では「関東甲信越静岡ブロック都県指定都市社会福祉協議会災害時の相互支援に関する協定」に基づき下記被災地域へ応援職員を派遣しました。

① 災害ボランティアセンター運営支援業務

◆ 支援先：広島県広島市（安芸区・南区似島地区）、呉市、坂町

◆ 派遣人数：計24名（県社協8名、市町村社協16名）
◆ 派遣期間：計47日間（延べ日数163日）



ボランティアの方々へ
オリエンテーションを実施



資材の管理や貸出を行う様子

2 災害派遣福祉チーム（DWA）派遣

岡山県倉敷市真備町が大きな被害を受けたことに伴い、周辺の避難所に避難している高齢者や要配慮者等からの相談業務等に対応可能な災害派遣福祉チーム（DWA）へ岡山県より派遣要請があり、本県よりぐんまDWAを派遣しました。

- ◆ 支援先：岡山県倉敷市真備町（倉敷市立園小学校）
- ◆ 派遣人数：計13名（DWA登録者12名+事務局1名）
- ◆ 派遣期間：計14日間（延べ日数71日）
- ◆ 業務内容：避難所等における相談業務等

3 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）派遣

災害ボランティアセンターの立ち上げ支援や関係機関とのネットワーク構築支援等、災害ボランティアセンターの運営支援を行っている支援Pからの要請により、過去の災害において多くの支援経験を有する運営支援者として本会職員を派遣しました。

- ◆ 支援先：広島県広島市、三原市他
- ◆ 派遣人数：計2名（延べ3名）
- ◆ 派遣期間：16日間
- ◆ 業務内容：災害ボランティアセンターの運営支援業務等

2

ぐんま
こども食堂ネットワーク

第39回すいらん美術展実行委員会から
ご寄付をいただきました！

昭和53年の創設以来、株式会社すいらんが毎年開催している「すいらん美術展」にて第12回チャリティー絵画展が実施され、37万2千2百円をこども食堂のためにご寄付いただきました。11月30日に、株式会社すいらんにて目録贈呈式が行われ、こども食堂ネットワークぐんまの丸茂代表に目録が手渡されました。梅津社長から「絵を通して社会貢献の気持ちを持ってもらいたい思いで開催している。身近なところに寄付ができてよかった。」との話をいただきました。

丸茂代表は「社会貢献のひとつとしてこども食堂を実施している。有効に活用します。」と述べ、感謝状をお渡ししました。

ご期待に応えた活動が出来るよう、いただいたご寄付を大切に活用させていただきます。ありがとうございました。



右から こども食堂ネットワークぐんま 丸茂代表／丸山 実行委員長／代表取締役社長 梅津 氏／事務局 梅津 氏

こども食堂ネットワークぐんまに関するお問い合わせ、ご寄付についてのご連絡は左記事務局までお願いします。

こども食堂ネットワーク

ぐんま事務局 (群馬県社会福祉協議会 生活支援課内)

TEL 027-212-0011

3

市町村社協会長セミナーを開催しました

9月26日(水)から27日(木)にかけて伊香保温泉森秋旅館にて「平成30年度市町村社協会長セミナー」が開催され、県内市町村の社会福祉協議会会長等が参加しました。

基調説明では、全国社会福祉協議会地域福祉部副部長の平井庸元氏より、国の施策である地域共生社会の実現のために市町村社協が取り組むべき実践課題について説明がありました。住民に身近な地域での福祉活動の推進や市町村圏域での総合相談体制の整備を進めるためには、社協会長をはじめとした役員員の共通理解のもと社協内での部門横断や、行政等関係機関との連携を図ることが重要であると強調されました。



情報交換の様子

また、基調説明後のグループ討議では活発な意見交換が行われ、各社協の現状や課題などが共有されました。

セミナー全体をとおし、これからの社協活動の方向性やあり方を確認するとともに、社協会長同士の横のつながりをつくる貴重な機会となりました。



講師の平井氏

◆群馬県ふれあい・いきいきサロン
推進連絡会
会長 鈴木 仁さん
いきいきサロン萩原
民生委員・児童委員 光山 鈴子さん

「ふれあい・いきいきサロン」とは、地域を拠点に住民同士が仲間づくり、居場所づくりを行う活動です。今回は、推進連絡会会長の鈴木さんと高崎市萩原公民館で毎月1回活動している「いきいきサロン萩原」を運営する光山さんにお話をうかがいました。

❖「ふれあい・いきいきサロン」の活動について、詳しく教えてください。

(鈴森、以下(鈴)) 各地域で民生委員さんやボランティアさんが中心となって、高齢者の方や子育て世代の方の居場所づくり、仲間づくりのために様々な活動をしています。特に高齢者向けのサロンは県内に2,000ヶ所以上設置され、地域ごとに住民の生活スタイルに合わせた活動を積極的にを行っています。

❖「いきいきサロン萩原」の主な活動の内容を教えてください。

(光山、以下(光)) 毎月第2火曜日の10時から12時まで活動し、11年目を迎えました。毎年、年間行事予定を計画し、今年は妙義へのバス旅行、市の出前講座を利用した勉強会、その他にも演奏会など、様々な活動を行っています。3年前には箕郷文化会館でのサロン発表会に参加したりと、スタッフ全員で積極的に活動しています。

❖こつとしたサロンの活動の意義は、どんなところにあると思いますか。

(鈴) 昔は向こう三軒、隣近所が日常的に交流を行っていましたが、

最近では地域のつながりも以前より薄れていることから、何とかサロンを通してつながれるよう、また、同時に高齢者同士が情報交換できる場としてサロンが地域にある意義は大きいと思います。



民生委員・児童委員
光山 鈴子さん

(光) 毎回25名以上集まって和気あいあいと活動に参加していただいているので、有意義な時を送っていたらいいんじゃないかなと思います。

❖参加者の方々の感想は。

(鈴) 一番は「楽しい」ということですよね。

(光) 「皆さんに会えること」「今日行かなきゃっていうことがある」「行事に参加して勉強できる」という声をよく聞きます。

❖今後、このような取り組みはますます必要になると思います。これからの目標や計画を教えてください。

(鈴) 昔からの地域は比較的近所づきあいがあるのですが、市街地では隣に住んでいる人もわからないこともあります。その地域に合ったサロンのあり方や運営を考える必要があります。また、担い手となる民生委員、ボランティアの方の負担の軽減も必要です。さらに、サロンには男性の参加者が少ない傾向があるので、県社協の方と一緒に工夫していききたいです。

(光) 今、このサロンは35名の会員がいます。今までためらいがあつて迷っていた方も少しずつ参加するようになって、来てみたら楽しい、旅行に行けてうれしいという声を聞きました。これからも今までどおり楽しいサロン活動を進めたいと思います。



会長
鈴木 仁さん

県社協会員紹介

助け合い、支え合う、県社協の仲間を紹介します

群馬県里親の会

昭和27年の創立以来、子どもたちの幸せを考え、養育に必要な知識と技術向上の為に研修や情報提供、会員同士の交流事業等を行ってきました。子どもをめぐる問題は年々深刻化し、社会的養護を必要とする子ども達が増加しており、里親の役割は重要となっています。私たちも時代の要請に沿い、明日を担う子ども達の為に活動を行っていきたくて考えております。



▲里親の資質向上研修会

児童養護施設と里親会のふれあいプロジェクト事業



まちの 社協 レポート



各市町村社協の
取り組み、活動を
レポートします

認知症の方を支える

「元気になるカフェ」

「元気になるカフェ」は、子どもから大人まで地域住民だれもが気軽に立ち寄れて自由におしゃべりが出来る場所であり、認知症の方やご家族を地域で温かく支える場所です。現在は町内2カ所で毎週木曜日の10～12時に開催し、認知症サポーターがコーヒーやお茶を用意し笑顔で迎えてくれます。

各カフェを毎回20～30人程度の方が利用されており、デイサービスの利用を拒否する認知症の方もご主人と毎週来てくれています。皆さん誰が認知症かどうかなど気にせず、楽しく会話が弾み、新しい知り合いが増えどんどん元気になる方やボランティアに繋がった方もいます。

カフェの運営にも協力してくださっている認知症サポーターですが、吉岡町では地域包括支援センターが社会福祉協議会に委託されているので、「町内の多くの人が認知症に対して正しい知識を持ち、吉岡町が認知症の方に優しい町になって欲しい」と考え、平成22年から認知症サポーター養成講座を行っています。カフェでは準備から片づけはもちろん、お話し相手、レクリエーション等サポーターの特技を活かして皆さんが楽しめるよう工夫して頂いています。このように地域に溶け込み始めた「元気になるカフェ」ですが、社会福祉協議会と地域包括支援センターで協力しながら今後は様々な専門職の方と連携し、相談体制を充実させ、さらに認知症の方を支える場所にしていきたく考えています。

社会福祉法人 吉岡町社会福祉協議会

北群馬郡吉岡町南下1333-4
TEL 0279-54-3930
FAX 0279-54-3673



吉岡町社会
福祉協議会
ホームページ



一緒に折り紙



サポーターによる
脳トレ体操



楽しくおしゃべり

CHECK!

介護のお仕事をめざす方を応援します!!

～介護福祉士修学資金等貸付事業のご紹介～

1 介護人材の再就職準備金貸付事業

1 事業概要

介護職としての一定の知識及び経験を有する方に対し、再就職準備金を貸与する。

2 対象者

- 県内の高齢者施設・事業所での就労を希望している方
- 介護福祉士等として1年以上の経験を有する方
- 離職してから再就職するまでの間、県福祉マンパワーセンター、高崎市福祉人材バンク又は太田市福祉人材バンクに登録し、申請書類を提出している方 … 等

3 金額 20万円（上限）

4 備考

- 再就職後、2年以上介護等の業務に継続して従事した場合に全額返還免除。
- 資金の用途
 - 子ども等の預け先を探す活動費
 - 介護に関する学び直し費用
 - 介護職として働くのに必要な被服費
 - 再就職に当たり転居する場合の転居費用
 - 通勤用具の購入費 … 等

2 介護福祉士修学資金貸付事業

1 事業概要

介護福祉士養成施設に在学し、介護福祉士の資格取得を目指す学生に対し修学資金を貸与する。

2 対象者

- 県内の養成施設に在学する方、県外の養成施設に在学し県内に住所がある方、及び、県内に住所があったが修学のため県外に転居した方
- 養成施設を卒業後、県内において介護福祉士として介護等の業務に従事しようとする方 … 等

3 種類・金額

- 学費（月額）… 5万円
- 入学準備金 … 20万円
- 就職準備金 … 20万円
- 国家試験受験対策費用 … 4万円

4 備考

介護福祉士の資格取得後、5年以上介護等の業務に継続して従事した場合に全額返還免除。（※ 募集期間があります。）

3 介護福祉士実務者研修受講資金貸付事業

1 事業概要

介護福祉士実務者研修施設に在学し、介護福祉士の資格の取得を目指す学生（受講生）に対し修学資金を貸与する。

2 対象者

- 県内の介護施設・事業所で就労しながら、県内の実務者研修施設に在学している方、及び県外の実務者研修施設に在学し県内に住所がある方
- 実務者研修施設を卒業後に、県内において介護福祉士として介護等の業務に従事しようとする方 … 等

3 金額 20万円（上限）
《授業料・テキスト代相当額》

4 備考

介護福祉士の資格取得後、2年以上介護等の業務に継続して従事した場合に全額返還免除。（※ 募集期間があります。）

群馬県社会福祉協議会 福祉資金課
TEL 027-255-6031 / FAX 027-255-6444

〒371-8525 前橋市新前橋町13-12
(群馬県社会福祉総合センター4階)

年頭のごあいさつ



社会福祉法人
群馬県社会福祉協議会
会長 片野 清明

新年明けましておめでとうございます。
皆様には、平成三十一年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。
本年は、社会福祉法人制度改革に伴う新たな業務執行体制がスタートして最初の二年間の区切りを迎えます。また、新しい元号が象徴する新たな時代を展望して、社会福祉協議会のあり方を考えるときでもあります。
私たちは、地域における社会福祉の充実に不可欠な存在として、これまでを支えた世代が穏やかに生き、これからの世代がたくましく希望をもって育ち、ともに支えあう地域共生社会の構築にしっかりとかわってまいります。
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

INFORMATION



お知らせ

「なんでも福祉相談」をご利用ください！

群馬県内の参加社会福祉法人による「なんでも福祉相談」がスタートしています。どこに相談したらよいかわからないといった生活や福祉に関する困りごと、お気軽に「なんでも福祉相談員」へご相談ください。
※費用は無料。ご相談はご本人でなくても構いません。



▲このステッカーのぼりが目印!!



▲身分証

生活上のお困りごと
私たち社会福祉法人に
ご相談ください!



▲産業祭や保育園での活動の様子

問い合わせ 施設福祉課 TEL 027-212-8287

福祉ぐんま

編集／発行

社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会

*福祉ぐんまは、群馬県社協ホームページでもご覧になれます。

〒371-8525 (専用郵便番号)
群馬県前橋市新前橋町13-12
群馬県社会福祉総合センター内
TEL 027-255-6033 (代表)
FAX 027-255-6173
URL <http://www.g-shakyo.or.jp/>
発行日 平成31年1月1日

あしがき

先日技能実習生受入面接のためベトナムへ行った。一生懸命練習した日本語で自己紹介をする姿は微笑ましく、「日本で介護を学びたい」「日本で働きたい」という気持ちが伝わり素直に嬉しい。同時に「大切に育ててくれない」と思う。外国人材受入拡大が議論されている。日本の労働人口減少は顕著で切実だ。知識や技術、経済力という日本ブランドが通用する今を逃してはいけない。介護分野では労働力としての期待が大きい。しかし効果はそれだけではない。日本の介護が世界のトップクラスであることは誇るべきことだ。それは働く者のモチベーションにも繋がる。日本が長期的に選ばれる国となるよう我々現場の努力こそが肝要だ。

編集委員 県老人福祉施設協議会 理事
(特別養護老人ホーム シェステさとの花 施設長) 今井 洋子